

あしたのために

四日市市立朝明中学校
3年生学年通信
平成31年2月25日(月)

その73 文責(浅野)

出逢いと別れ

～出会いの数だけ別れは増える、それでも希望に胸は震える～

掲示物がはがされ、なんだかいつもの教室ではないような感じの朝ですね。カウントダウンカレンダーを見れば、もう一桁。朝明中学校との別れが近づいています。

出会いは、別れへのカウントダウン。出会いがあれば、いつかその人と別れる日がやってくる。これは人生の法則です。この世で出会った人とは、いつか別れる運命なのです。

出会った瞬間から、別れなければいけないときが刻一刻と近づいてきます。しかし、これで終わりではありません。別れと同時に次の出会いへのカウントダウンが始まるのです。出会いと別れは、交互に繰り返されるもの。地球には今、70億人もの方がいます。80年の人生で毎日1人ずつ出会ったすると、およそ3万人です。毎日10人ずつ出会ったとしても、30万人。毎日100人ずつ出会ったとしても、300万人。4組の西村先生の通信にも書かれていましたが、1秒ごとに1人と出会っていったとしても180年かかるそうです。70億にははるか遠く及びません。寂しい別ればかりではなく、新しい出会いにも期待したい。別れも運命なら、出会いも運命。先生たちと君たちが出会ったのも運命なのです。

どちらも貴重な人生経験なのです。こんな出会いの話もある。知っている人も有名お話ですね…

タレントの武井壮さんはみんなも知っていると思います。元陸上十種競技の日本選手権チャンピオン。陸上十種競技とは、100m、走り幅跳び、砲丸投げ、走り高跳び、400m、110mハードル、棒高跳び、円盤投げ、やり投げ、そして最後に1500mを走り、総合得点で争う競技です。武井さんの記録を見てみると、1500mを除けば、どの種目もレベルが高く、県の陸上選手権の優勝記録と比べてみると、100mと走り幅跳びは、おそらく優勝するであろう。1500mを除けば、と書いたが、それでも10種目の疲れた体で、1500mを4分30秒を切ってくるのだからすごいというほかはありません。10種目の練習をこなすのだから、間違いなく体力だけではなく、考える力もかなりのものなのです。ここからは武井さんの話です。

(「私の恩人」という記事より)



若い頃の自分は、本当に嫌なヤツでした。今から思うと、ホント魅力がないし、皆さんに見ていただくような顔もしていなかった。それが最も顕著だったのは、31、32歳の頃でした。大学で陸上競技に打ち込み、その後、プロゴルフの世界を目指してアメリカにゴルフ留学したんです。日本に戻ってきたのが28、29歳。ただ、ゴルファーとしてもうまくいかず、そこから台湾プロ野球のコーチとして台湾に行ったり、また日本に戻ってきてアスリートを指導したり…そんな時期だったんですけど、ホント、正直な話、

そういう仕事はやりたくなかったんです。お仕事をいただいているのに、ひどいもの言いなんですけど…。ゴルフに未練があったし、もっと大きなところで言うと、アスリートとしての我(が)の強さなんでしょうね。自分が教えた選手ではなく、自分自身が人に認められたい、評価されたい。しかし、それがままならない現実がある。でも、日銭を稼がないと、生きていけない。思い浮かぶのは「なぜ自分を認めてくれないんだ。なぜ誰も俺を支えてくれないんだ。こんなに頑張ってるのに」というすねた考えばかり。すごく雑な毎日を過ごしていました。これを言う「大丈夫か…?」と思われるかもしれませんが(笑)、その頃、本気でイメージしていたのが、アフリカに行くこと。そして、マウンテンゴリラの群れでボスになって暮らすことを真剣に考えていたんです。それくらい、人間の世界に嫌気がさしていたし、自暴自棄にもなっていました。そんな真っ只中のある日、神奈川県で仕事があったんです。ゴルフ留学していた経験を活かして、ゴルフクラブを輸入販売するような仕事の話だったんですが、やっぱり、本当の気持ちはさきく裂れてたんですよ。そこで、仕事先の人とモメにモメた。とことん落ち込んだまま、トボトボと駅に向かってたんです。すると、駅前で、路上ライブをしている人たちがいる。こちらは精神的にもどん底です。「あんな大きな声で歌って、恥ずかしくないのか。迷惑な話だ…」と腹立たしく思ってたんですが、何となく聞いていたら、いつの間にか、ひきこまれて自分に気づいたんです。そこにお客さんがいるかどうか分からないところに来て、一生懸命、楽しそうに、何とか成功したいと思って歌っている。そうやって、この1分を使っている。逆に、今、俺は何をしてるんだ。「自分には力があるのにチャンスがない、お金がない、スポンサーがつかない…」そんなことばかり考えながら、荒(すき)んだ顔で1分を過ごしている。この違いは何なんだと。瞬間的に、そんな思いが頭を駆け巡ったんです。

その日から、オーディションに行ったり、芸人さんがたくさん来られる西麻布のバーに通い詰めたり、スポーツと芸能という両方の要素がある欽ちゃん球団（茨城ゴールデンゴールズ）に入ったり。武井壮という人間の目指すべきところを考えたいです。そして、路上ライブから2年くらい経った頃。たまたまテレビをつけてたら、耳を疑う声が聞こえてきたんです。NHKの「ポップジャム」という番組だったんですけど「今日、テレビ初登場!!『いきものがかり』の皆さんです」と。画面に目を向けると、駅前で歌ってたあの子たちだ。あの日、自分に衝撃を与えた彼らが、メジャーデビューしている。しかも、NHKにも出るようになって、それをたまたま俺が見ている…

そこから、さらに強い縁を感じて、ライブがある度に足を運び、CDが出る度に買いました。そして、2012年、俺が世に出るきっかけになった中居正広さんの番組「うもれびと」（フジテレビ系）があって、ありがたいことに武井壮という人間が少しは世間の皆さんに知ってもらえるようになった。すると、以前から、ツイッターでは『いきものがかり』が好き」とつぶやいていたこともあり、今まで自分でチケットを買っていたコンサートに、招待していただける機会を得たんです。

僕は、本当にご縁に恵まれた人間で、たくさんの方々にお世話になってきました。恩人と呼ぶべき方々は本当に、本当に、たくさんいらっしゃいます。ただ、その原点を作ってくれたのが「いきものがかり」なんです。実際、メンバーにお会いして、自分がハンドルを切った方向が間違っていなかったという“答え合わせ”もさせてもらいました。

結局人生って「出会い」なのですよ。先生たちも振り返ると何百という出会いをして、教師という仕事にたどり着いたのです。すべては出会いから始まっているような気がしますね…

受験生のみんなに贈る有名人の名言集 70

2019年度公立高校後期選抜入試まで16日/卒業まで8日

“Our meeting was not a coincidence. Nothing happens by accident.”

訳「出会いは偶然ではない。すべて運命（さだめ）なのです」

映画『スター・ウォーズ/フォースの覚醒』の中の台詞。幼いアナキン・スカイウォーカーが故郷を離れジェダイの修行に身を投じることに抵抗したアナキンの母親に向かって、ジェダイマスターのクワイ=ガン・ジンが言ったセリフ。この星でアナキンとクワイ=ガン・ジンが出会ったこと、この星を離れること、ジェダイになることも、すべてが運命という意味です。私たちの人生も、人との出会いや行いは、運命に導かれることがあるのかもしれませんがね。

また、チャンフは人がもたらしてくれるもの、そういえば今自分が頑張っている環境も、運命と言えるかもしれません。

✓CHECK わかりやすいですね



3年生を送る（送られる）会

金曜日に生徒会を中心に、「3年生を送る会」が全校で行われました。全校で過ごす最後の集会となりましたが、久しぶりに「ほっ」とした時間だったのではないのでしょうか。懐かしい先生方のビデオレターには感動しましたね。生徒会のみなさん、在校生のみなさん、ありがとうございました。

